

参考資料

平成29年度大学入試センター試験（本試験）の試験問題の評価について（外部評価分科会）

大学入試センター試験は、「大学に入学を志願する者の高等学校段階における基礎的な学習の達成の程度を判定することを主たる目的とした」試験として実施されている。このことに照らし、試験問題評価委員会は、本試験の試験問題について、以下の項目別（7項目）及び総合的観点から適切であったかを、枠内の評定値により4段階で評価した。

評価結果は、次ページのとおりである。

1 項目別評価

- (1) 高等学校学習指導要領の範囲内から出題されている（出題範囲）
- (2) 単に知識だけではなく、思考力や応用力等を問う問題も含まれている（思考力）
- (3) 出題内容は、特定の分野・領域や特定の教科書に偏っていない（出題内容）
- (4) 試験問題の構成（設問数、配点、設問形式等）は適切である（問題構成）
- (5) 文章表現・用語は適切である（表現・用語）
- (6) 問題の難易度は適正である（難易度）
- (7) 得点のちらばりは適正である（得点のちらばり）

2 総合評価

1の項目別評価を踏まえて総合的に評価すると、大学入試センター試験の試験問題として適切である

（評定値）

- 4 あてはまる
- 3 ある程度あてはまる
- 2 あまりあてはまらない
- 1 あてはまらない

1. 項目別評価

| 項目 | 評価結果 | コメント |
|-------------|------|---|
| (1) 出題範囲 | 4 | 高等学校学習指導要領の趣旨を踏まえ、「国語総合」の教科書で扱われる程度の文章から出題されており、適切であった。 |
| (2) 思考力 | 4 | 基礎・基本を重視しながらも、論理的思考力や判断力を問う設問が多く見られた。今後も同様の作問を期待する。 |
| (3) 出題内容 | 4 | 授業において日々積み重ねてきた学習の成果が現れるよう、多様な分野や領域から幅広く出題されていた。 |
| (4) 問題構成 | 3 | 表現効果や段落構成を問う設問が含まれているなど、各設問の視点が多様であり、適切であった。ただ、解答時間を多く費やしてしまう設問がいくつか見られた。 |
| (5) 表現・用語 | 4 | 文章表現・用語は素材文、選択肢群ともに適切であった。 |
| (6) 難易度 | 3 | 全体の平均点は106.96点と、昨年度よりも22.43点下降した。難易度自体は適切でも解答に要する時間とのバランスを取る必要がある。 |
| (7) 得点のちらばり | 4 | 受験者の学力をよく識別する設問も多く見られ、得点のちらばりは適正であったと思われる。 |

2. 総合評価

| 項目 | 評価結果 | コメント |
|------|------|---|
| 総合評価 | 4 | 1. の項目別評価を踏まえて総合的に評価すると、大学入試センター試験の試験問題として適切であった。 |

| | |
|-----|------|
| 科目名 | 世界史A |
|-----|------|

1. 項目別評価

| 項目 | 評価結果 | コメント |
|-------------|------|--|
| (1) 出題範囲 | 4 | 学習指導要領及び教科書に基づいた出題範囲であった。近代史・現代史中心という科目の主旨がはっきりと反映された出題であった。 |
| (2) 思考力 | 3 | 昨年度なかったグラフの読み取り問題が出題されるなど、単に知識だけでなく、思考力や判断力を問う問題があった。リード文を精読したり、知識を活用して思考・判断することで正答を導き出す出題の工夫がさらに求められる。 |
| (3) 出題内容 | 3 | 前近代史からの出題が例年より少し多く、現代史が減少した。ヨーロッパ・北アメリカに関する出題や政治史の出題が多いことは教科書の記載量から妥当であった。今後もバランスに配慮した出題であって欲しい。 |
| (4) 問題構成 | 4 | 昨年同様、大問4題、小問10題の構成であり、多様な観点からの出題であった。単純な語句選択問題は1題のみで、組み合わせたり、絵画を使用したりするなど出題に工夫があった。ただ、唯一の4点問題は、資料をもとに考察させるものなどに充てることが望ましい。 |
| (5) 表現・用語 | 4 | 全体として受験者にとって、理解可能な適切な表現・用語が用いられており、解答に迷いは生じなかったと思われる。 |
| (6) 難易度 | 3 | 文章選択問題や年表問題で、「世界史A」では細かい内容や多くの教科書で扱われていない内容が見られる。特に世界史Aでは、受験者が使用している教科書によって難易度に差が出ることはないよう、出題の工夫が望まれる。 |
| (7) 得点のちらばり | 4 | 平均点は昨年度よりやや上がり、得点のちらばりも正規分布に近い形を描いており、適切な出題を示している。 |

2. 総合評価

| 項目 | 評価結果 | コメント |
|------|------|--|
| 総合評価 | 4 | 近・現代史を中心とした出題で、「世界史A」の主旨に合致していた。知的推論を働かせて解答する出題の工夫が求められるが、基礎的な学習の達成の程度を判定することを主たる目的とした試験としては適切である。 |

1. 項目別評価

| 項目 | 評価結果 | コメント |
|-------------|------|---|
| (1) 出題範囲 | 4 | 高等学校学習指導要領の範囲に沿って出題されていた。学習指導要領で重視されている「地理歴史科」の他科目との関連性に配慮された設問が増加している。 |
| (2) 思考力 | 3 | 地図を用いて思考力、応用力を問う設問が増加しているが、リード文の読解や資料の分析を要求する設問をより増やしていくことがのぞまれる。 |
| (3) 出題内容 | 4 | 基本的事項を中心にしたもので、教科書の内容を理解していれば十分に対応可能であった。時代別では「現代史」、分野別では「政治史」の割合が高かったが、全体としてはバランスに配慮されていた。 |
| (4) 問題構成 | 4 | 設問数、配点、設問形式については適切であった。 |
| (5) 表現・用語 | 4 | 文章表現・用語は適切であり、受験者が十分理解できるものであった。 |
| (6) 難易度 | 4 | 大学入学を志願するものの学力を判定する問題の難易度として、適切であった。平均点からみても妥当であったといえる。 |
| (7) 得点のちらばり | 4 | 8割、9割台の人数が最も多いが、受験者の学習の成果が反映された結果であり、妥当であると考えられる。 |

2. 総合評価

| 項目 | 評価結果 | コメント |
|------|------|---|
| 総合評価 | 4 | 全て学習指導要領に沿って出題されており、出題範囲のバランスや難易度にも配慮がなされていた。今後はより一層、リード文や資料の活用を通して、思考力、応用力を問う問題が増えることを期待したい。 |

| | |
|-----|------|
| 科目名 | 日本史A |
|-----|------|

1. 項目別評価

| 項目 | 評定結果 | コメント |
|-------------|------|---|
| (1) 出題範囲 | 4 | 19世紀半ばから1990年代までの出題であり、扱われた内容も学習指導要領の範囲内から適切に出題されている。 |
| (2) 思考力 | 4 | 史料・グラフ・地図・図版等からの出題が昨年度に比べ1問増加したが、よく工夫されていた。また、複数の項目や分野にまたがった問題も多く、受験者の歴史的思考力や応用力を問う良問が多かった。 |
| (3) 出題内容 | 3 | 項目別ではバランスよく出題されていたが、分野別では政治・社会経済がやや増加し、外交・文化がやや減少した。昭和戦後以降の外交・文化も適切に出題していただきたい。 |
| (4) 問題構成 | 4 | 設問数、問題形式は適切である。配点は昨年度から4点問題が4題出されたが、受験者が得点しやすい問題を4点問題にさせていただくことをお願いしたい。 |
| (5) 表現・用語 | 3 | 細かく正確な知識を問う選択肢が増え、一問一答的な学習では判別することが難しい表現がみられたが、正しく理解していれば正答に至ることができた。リード文や史料を読み解けば分かるようにキーワードが適切に配置されており、歴史的な思考力を問う工夫がみられた。 |
| (6) 難易度 | 2 | 今年度の「日本史B」との共通問題は易化したが、「日本史A」だけの問題は難化した。標準2単位であることを踏まえ、問題の難易度にはなお一層配慮をいただきたい。 |
| (7) 得点のちらばり | 2 | 低得点者に偏った分布となった。来年度以降、高得点者が増えるような分布となるよう期待したい。 |

2. 総合評価

| 項目 | 評定結果 | コメント |
|------|------|--|
| 総合評価 | 3 | 新課程を意識し、受験者の思考力・読解力・応用力を問う良問が多く、作問者の工夫がよくわかる力作であったと評価する。しかし、残念ながら難易度が高かった。来年度もこの姿勢で作問されるとともに、難易度が下がることを期待する。 |

1. 項目別評価

| 項目 | 評価結果 | コメント |
|-------------|------|--|
| (1) 出題範囲 | 4 | 学習指導要領に則した基礎的・基本的な内容が問われ、全体的には、時代別・分野別ともバランスよく出題された。今後は、戦後史を長期的な視点で見た出題も検討していただきたい。 |
| (2) 思考力 | 4 | 文献、表・地図・図版などの資料史料を用いて歴史的考察に迫る出題では、資料活用させる上で、リード文や脚注に工夫が見られた。思考力を測る良問が多く、今後もこのような出題をお願いしたい。 |
| (3) 出題内容 | 4 | 政治、外交、社会・経済、文化・思想の各分野を相互に関連づけて考察させる出題は、幅広い理解力を問う良問である。今後もバランスの取れた出題をお願いしたい。 |
| (4) 問題構成 | 4 | 第1問では、昨年度増加した時代を区切らないテーマ史の問題の配点が維持された。大きな時間軸の中で歴史事象の展開を判断させる出題者の意図は大いに評価できる。今後も継続していただきたい。 |
| (5) 表現・用語 | 4 | 手紙を用いたリード文では、わかりやすい表現が用いられ、受験者が、落ち着いて問題に取り組めるよう配慮されていた。今後も継続していただきたい。今年度も用語の表記について、語句の併記など多様な教科書で学ぶ受験者への配慮が見られた。 |
| (6) 難易度 | 3 | 年代配列問題が増加し、年代配列を短いスパンで判断したり、正誤問題で正確な年代把握が必要となったことで、受験者にとって難易度が上がったと思われる。しかし基本的な知識の理解を重視するという、センター試験の趣旨は貫かれている。 |
| (7) 得点のちらばり | 4 | 大多数の設問は標準レベルだったが、やや難度の高い設問や基礎的な知識を問う設問も散りばめられていた。得点がほぼ正規分布を示していたことから、全体としてバランスのよい出題であったと考える。 |

2. 総合評価

| 項目 | 評価結果 | コメント |
|------|------|---|
| 総合評価 | 4 | 昨年度同様、新学習指導要領の趣旨に基づいた出題であり、基礎・基本事項の定着度に加え、理解力や歴史的思考力を測る良問であり、全体として適切な試験であった。次年度以降も基礎的な学力を判定する方針を継続していただきたい。 |

| | |
|-----|-----|
| 科目名 | 地理A |
|-----|-----|

1. 項目別評価

| 項目 | 評定結果 | コメント |
|-------------|------|--|
| (1) 出題範囲 | 3 | 学習指導要領に沿った範囲となっている。「地理A」と「地理B」の範囲は混同されやすく、いくつかの小問には、「地理A」としては精緻すぎる内容がみられた。 |
| (2) 思考力 | 4 | 複数の図表を総合的に読ませる問題や教科書には直接的な表現はないが、学習内容から考察できる問題が提示されていた。 |
| (3) 出題内容 | 3 | おおむね、全範囲をカバーする問題となっていた。昨年度なかった地誌の出題であったが、「地理A」は世界を広く大観することが学習内容であり、ひとつの地域に限るのではなく、複数の地域をからめるなどの配慮がほしかった。 |
| (4) 問題構成 | 4 | 適切であった。 |
| (5) 表現・用語 | 4 | おおむね適切である。指標の項目が長い言葉になる場合は、表現に工夫があるとよい。(言葉の句切りやまとまりの判断がつきにくく、言葉の読解に時間がとられるため) |
| (6) 難易度 | 4 | 適切であった。高得点が出にくい難問を含んでいる。 |
| (7) 得点のちらばり | 4 | 概ね適切であった。今年も満点はおらず、高得点層は薄かった。 |

2. 総合評価

| 項目 | 評定結果 | コメント |
|------|------|--|
| 総合評価 | 4 | 概ね「地理A」としての範囲を逸脱せず出題されていた。図表、写真等丁寧に熟考されて作られている。新しい切り口も提示されており、知識を基盤とした思考力・判断力を求める出題の工夫がされており、高校の授業への示唆に富む内容となっている。 |

| | |
|-----|-----|
| 科目名 | 地理B |
|-----|-----|

1. 項目別評価

| 項目 | 評価結果 | コメント |
|-------------|------|---|
| (1) 出題範囲 | 4 | 全般的に高等学校学習指導要領の目的や内容に沿った出題である。あらゆる分野から出題され、出題分野に偏りはない。災害と防災については、学習指導要領の一部改訂を踏まえ、合計4題が出題された。ハザードマップの読み取りなど、いずれも災害を身近なものとして捉える視点が重視され、工夫された良問である。 |
| (2) 思考力 | 4 | 統計地図の利用など、地図と図表を使った問題が昨年度の6題から本年度は13題と大きく増加した。知識を問う問題から思考力を問う問題に重点が移ったといえる。時間配分も適切であり、基礎的事項の理解を前提に思考力を問う問題もあり、工夫された良問が多い。 |
| (3) 出題内容 | 4 | 地図や統計資料の読み取りなど「地理的な見方」を問う問題が増え、さらにその読み取りをもとに推察する「地理的な考え方」を問う問題も増えた。問題作成のために作られた図表の中には、読み取りが難解で改善を要するものも散見されたが、高等学校の学習実態を踏まえた出題内容である。 |
| (4) 問題構成 | 4 | 設問数、配点ともに適切であった。地図、図表、写真等の視覚的題材を多用していることは、高く評価できる。また設問形式も文章の正誤を問う問題、選択問題、組合せ問題がバランスよく配列され、適切である。 |
| (5) 表現・用語 | 3 | 文章の表現や用語の使い方は、おおむね適切なものが大半である。地形図と地勢図については、原色がカラーのものはカラー化するように、引き続き望みたい。 |
| (6) 難易度 | 4 | 高等学校の学習活動の範囲を超えた難解な問題がいくつかあるものの、全体として難易度は適正である。複数の地図や図表を比較して答えを導き出す設問は、問題によっては受験者にとって時間を要するものもあり、難易度の設定に引き続き配慮が必要である。 |
| (7) 得点のちらばり | 3 | 得点分布はほぼ正規分布をしていることから、得点のちらばりはおおむね適正といえる。ただし「地理B」は他の地理歴史B科目と比べて、例年、標準偏差が小さい特徴がある。これは知識に不足があっても思考すれば解けるような易しい問題がある一方、勉強しても高得点が取れない受験者が多いことも示している。高得点者がより多くなる分布となるよう期待したい。 |

2. 総合評価

| 項目 | 評価結果 | コメント |
|------|------|--|
| 総合評価 | 4 | 全体として適切な試験である。図表読解や思考力の重点化、比較地誌の定着化など、新課程を意識した出題は、高校の現場に変革を迫ることにもなり、よい傾向である。今後とも、地図や図表を活かすとともに、受験者の学習成果が得点に反映されるような問題を期待したい。 |

1. 項目別評価

| 項目 | 評定結果 | コメント |
|-------------|------|--|
| (1) 出題範囲 | 4 | 現行の高等学校学習指導要領の範囲から適正に出題されている。 |
| (2) 思考力 | 3 | 昨年度に比べると、思考・判断・応用の力を重視する傾向が見受けられた。今後も思考・判断・分析・活用の力を問う問題をさらに増やすことが望まれる。 |
| (3) 出題内容 | 4 | 現行の高等学校学習指導要領に示された科目の特性を踏まえた出題内容であり、偏りなく出題された。 |
| (4) 問題構成 | 4 | 大問数、小問数とも昨年度と同様であり、適切である。配点、設問形式も適切である。リード文をすべての大問に付し、「現代社会」という科目の性格を意識した切り口を示した点は評価できる。 |
| (5) 表現・用語 | 3 | 選択肢で「該当するものはない」を設定することが、教育的か否かについては意見が分かれるところであろう。選択肢の表現や並べ方についても、一層の工夫や配慮が望まれる。 |
| (6) 難易度 | 4 | 全体としては基礎的・基本的な知識を問う内容が多く、授業で扱う内容と時事的事象も含めた知識・理解で十分得点でき、難易度は全体として適正である。 |
| (7) 得点のちらばり | 4 | ほぼ正規分布であり、適正であった。 |

2. 総合評価

| 項目 | 評定結果 | コメント |
|------|------|---|
| 総合評価 | 4 | 学習指導要領に準拠し教科科目の目標や指導上の留意点などを踏まえ、偏りなく、基礎的・基本的な知識から、思考力・判断力を問う問題まで出題され、大学入試センターの問題として適切である。 |

| | |
|-----|----|
| 科目名 | 倫理 |
|-----|----|

1. 項目別評価

| 項目 | 評価結果 | コメント |
|-------------|------|--|
| (1) 出題範囲 | 3 | おおむね学習指導要領の範囲内からの出題であるが、学習指導要領が求めるレベルよりも深く問う設問が見られた。 |
| (2) 思考力 | 4 | 単純に知識を問うだけでなく、新課程を意識した思考力や読解力を問う設問が多かった。 |
| (3) 出題内容 | 3 | 全体では、一部の教科書にのみ取り扱われているもの、また教科書脚注からの出題割合が高かった。大問では、第4問において近代思想に対し、現代思想の出題がやや多かった。[3]の芸術家を問う設問は、倫理が求める知識から外れている印象を受ける。 |
| (4) 問題構成 | 2 | 設問数や配点においては適切であるが、昨年度に引き続き基礎・基本レベルの知識を問う問題が少ない。設問形式については、3つの文章の正誤問題をはじめとし、8択の問題が多い。また、全体として文章量が多く、受験者の負担は重い。 |
| (5) 表現・用語 | 4 | 難解な語句や表現はなくおおむね適切であった。 |
| (6) 難易度 | 2 | 全体として、基礎・基本の知識を問う問題が少なく、教科書の脚注からの出題が大半を占める。また、文章量が多い上、設問にも8択の正誤問題や資料読み取り問題、さらに趣旨一致問題は、リード文が難解なうえ選択肢の分量が多いなど、時間を要するものが多い。 |
| (7) 得点のちらばり | 2 | 満点者が0人であるうえ、高得点者層が極端に少ない分布となっている。「倫理」受験者層の学力は、他の公民科目の受験者より高いという意見もある中で、このような分布は疑問を感じざるを得ない。 |

2. 総合評価

| 項目 | 評価結果 | コメント |
|------|------|---|
| 総合評価 | 3 | 思考力・読解力を意識した工夫された設問が多い。その一方、文章量が多く、各設問の難易度も高く受験者の負担は重い。科目選択による有利不利が出ないよう他の公民科目との難易度バランスを考慮し、受験者の力が公平に測られる作問を望む。 |

1. 項目別評価

| 項目 | 評定結果 | コメント |
|-------------|------|---|
| (1) 出題範囲 | 4 | 全ての問題は、高等学校学習指導要領の範囲内から出題されていた。 |
| (2) 思考力 | 4 | 基礎的な知識をもとに思考力や応用力を問う問題や、資料やグラフ・図を用いて、読解力や分析力を問う問題が増えており、工夫が見られた。ただし、思考力を問う出題がやや経済分野に偏っており、改善を望みたい。 |
| (3) 出題内容 | 3 | 昨年度同様の大問4問だったが、政治分野、経済分野の融合問題が2問、政治分野、経済分野からそれぞれ1問ずつと、バランスよく出題されている。ただし、教科書掲載頻度の低い用語を問う際には、採択教科書により有利不利が生じることのないよう出題の工夫が望まれる。 |
| (4) 問題構成 | 3 | 問題構成は概ね適切である。昨年度同様の34問だったが、思考力を問う問題が多くなったため、解答時間に応じた問題数であると思われる。分野における内訳は、政治分野が15問44点、経済分野が19問56点となり、昨年度と比較して経済分野にやや偏ったものとなった。適文選択と不適文・誤文選択のバランスを配慮すべきと考える。 |
| (5) 表現・用語 | 3 | リード文はメッセージ性のある内容が多くなり改善された。また空所を設け、文章に下線部を引く等の受験者に読ませる工夫も見られた。一方、やや短過ぎるリード文の内容、設問の文章表現の不統一等のさらなる改善を求めたい。 |
| (6) 難易度 | 4 | 問題の難易度は適正なものである。基礎レベルと応用レベルにおける問題配分及び配点については、基礎レベル27問81点、応用レベル7問19点で、大問ごとの配分も適切であった。しかし、応用レベルが経済分野に5問と偏っていたことは配慮が望まれる。 |
| (7) 得点のちらばり | 4 | 得点のちらばりは適正である。政治分野と経済分野の配点や大問間における難易度については、引き続き調整を希望する。 |

2. 総合評価

| 項目 | 評定結果 | コメント |
|------|------|--|
| 総合評価 | 4 | 問題は基礎的な知識を問うものを中心にしながら、思考力や判断力を問う出題もあり改善されている。引き続き、基礎的な知識を活用して思考する力を問う出題や時事的・社会的な知識から諸問題を考察させる出題の充実を一層期待する。以上の観点を踏まえて総合的に評価すると、大学入試センター試験の試験問題として適切であったといえる。 |

1. 項目別評価

| 項目 | 評価結果 | コメント |
|-------------|------|---|
| (1) 出題範囲 | 4 | 「倫理」「政治・経済」とも、おおむね学習指導要領の範囲内から問題が出題されていた。 |
| (2) 思考力 | 4 | 「倫理」分野については、思考力・読解力を問う設問が多かった。「政治・経済」分野については、基礎的な知識をもとに思考力を問う問題や、資料を用いて読解力を問う問題が増えており、工夫が見られた。ただし、思考力を問う出題がやや経済分野に偏っており、改善を望みたい。 |
| (3) 出題内容 | 3 | 昨年度同様、大問6問のうち、「倫理」分野と「政治・経済」分野が3問ずつ出題された。両分野とも全体からバランスよく出題されていたが、「倫理」分野については、西洋近代思想の設問がやや少なかった。全体を通して、一部の教科書にしか掲載されていない出題や脚注からの出題が多かった。「政治・経済」分野については、教科書掲載頻度の低い用語を問う際には、採択教科書により有利不利が生じることのないよう出題の工夫が望まれる。 |
| (4) 問題構成 | 3 | 問題構成はおおむね適切である。昨年度同様37問で、設問内容は「倫理」分野が19問、「政治・経済」分野が18問で、配点は50点ずつであった。「倫理」分野については、思考力・判断力を必要とする問題が多く、また8択が5問もあるうえ、全体として文章量が多く、受験者の負担は重い。基礎・基本の知識を問う設問を増やすことが望まれる。「政治・経済」分野については、昨年度と比較して経済分野にやや偏ったものとなった。適文選択と不適文・誤文選択のバランスを配慮すべきと考える。 |
| (5) 表現・用語 | 3 | 「倫理」分野については、難解な語句や表現はなく、おおむね適切であった。「政治・経済」分野については、リード文はメッセージ性があり、受験者に読ませる工夫も見られた。一方、文章表現の不統一等のさらなる改善を求めたい。 |
| (6) 難易度 | 3 | 「倫理」分野については、基礎・基本の知識を問う問題が少なく、教科書脚注からの出題が多い。また、文章量が多い上、8択の選択肢が5問もあるなど、時間を必要とし、難易度は高い。「政治・経済」分野については、難易度は適正なものである。レベルにおける問題配分及び配点は、基礎レベル13問36点、応用レベル5問14点で配分も適切であった。「倫理」分野と「政治・経済」分野の難易度が等しくなるような作問をお願いしたい。 |
| (7) 得点のちらばり | 4 | 得点のちらばりは適正である。設問間における難易度については、引き続き調整を希望する。 |

2. 総合評価

| 項目 | 評定結果 | コメント |
|------|------|--|
| 総合評価 | 3 | 「倫理」分野については、思考力・読解力を意識した工夫された設問が多い。その一方、文章量が多く、各設問の難易度も高いため、受験者の負担は重い。基礎的・基本的な知識・理解を手掛かりに正解を導き出せるような良問の作成により、受験者の地道な努力が報われるような配慮をお願いしたい。「政治・経済」分野については、問題は基礎的な知識を問うものを中心としながら、思考力や判断力を問う出題もあり改善されている。引き続き、基礎的な知識を活用して思考する力を問う出題や時事的・社会的な知識から諸問題を考察させる出題の充実を一層期待する。 |

1. 項目別評価

| 項目 | 評価結果 | コメント |
|-------------|------|-------------------------------------|
| (1) 出題範囲 | 4 | 高等学校学習指導要領に定める範囲内での出題であった。 |
| (2) 思考力 | 4 | 第2問や第3問など、思考力や応用力を問う問題があり、十分に評価できる。 |
| (3) 出題内容 | 4 | 特定の分野や内容に偏ることなく、出題されていた。 |
| (4) 問題構成 | 4 | 設問数、配点、設問形式等、適切である。 |
| (5) 表現・用語 | 4 | 問題の文章表現、用語に関して、適切であった。 |
| (6) 難易度 | 4 | 学習の達成度を正しく評価できる出題であり、適正であった。 |
| (7) 得点のちらばり | 4 | 得点のちらばりは適正であった。 |

2. 総合評価

| 項目 | 評価結果 | コメント |
|------|------|--------------------------------------|
| 総合評価 | 4 | 以上の観点を踏まえて、大学入試センター試験の試験問題として適切であった。 |

1. 項目別評価

| 項目 | 評価結果 | コメント |
|-------------|------|--|
| (1) 出題範囲 | 4 | 高等学校学習指導要領に定める範囲内での出題であった。 |
| (2) 思考力 | 4 | 第1問〔3〕や第2問〔1〕、第3問など、思考力や応用力を問う問題があり、十分に評価できる。 |
| (3) 出題内容 | 4 | 特定の分野や内容に偏ることなく、出題されていた。 余弦定理は数学Ⅰで学習する内容であり、第5問の選択問題での出題は目新しい。 |
| (4) 問題構成 | 3 | 設問数、設問形式等、適切である。 「二次関数」の配点が10点であり、教科書における取り扱いの分量を考えると、やや少ないと思われる。 |
| (5) 表現・用語 | 4 | 問題の文章表現、用語に関して、適切であった。 |
| (6) 難易度 | 4 | 学習の達成度を正しく評価できる出題であり、適正であった。 |
| (7) 得点のちらばり | 4 | 得点のちらばりは適正であった。 |

2. 総合評価

| 項目 | 評価結果 | コメント |
|------|------|--------------------------------------|
| 総合評価 | 4 | 以上の観点を踏まえて、大学入試センター試験の試験問題として適切であった。 |

1. 項目別評価

| 項目 | 評価結果 | コメント |
|-------------|------|---|
| (1) 出題範囲 | 4 | 高等学校学習指導要領の範囲内から適切に出題されていた。 |
| (2) 思考力 | 4 | 数学的な思考力や応用力等を問う問題が適切に含まれていた。特に、指数関数・対数関数と図形を融合した問題は良問であった。 |
| (3) 出題内容 | 4 | 全範囲から適切に出題されていた。特に微分法の接線を求める問題は、基本的な問題であり、良問であった。 |
| (4) 問題構成 | 4 | 試験問題の設問数、配点ともに適切であった。選択肢から選ぶ形式は、工夫されていた。 |
| (5) 表現・用語 | 4 | 問題の文章表現、用語に関しては、適切であった。特に、先の解答の見通しがたつような問題文の表現が工夫されていた。 |
| (6) 難易度 | 4 | 難易度は適正であり、学習の達成度を正しく評価できる出題であった。基本から発展的な問題までバランスよく出題されていて、計算量も適正であった。 |
| (7) 得点のちらばり | 4 | 適正であった。 |

2. 総合評価

| 項目 | 評価結果 | コメント |
|------|------|--|
| 総合評価 | 4 | 以上の観点を踏まえて、総合的に上記評価値で評価すると、大学入試センター試験の試験問題として適切であった。 |

1. 項目別評価

| 項目 | 評価結果 | コメント |
|-------------|------|---|
| (1) 出題範囲 | 4 | 高等学校学習指導要領の範囲内から適切に出題されていた。 |
| (2) 思考力 | 4 | 数学的な思考力や応用力等を問う問題が適切に含まれていた。特に、指数関数・対数関数と図形、対数関数と数列を融合した問題は良問であった。 |
| (3) 出題内容 | 4 | 全範囲から適切に出題されていた。特に微分法の接線を求める問題は、基本的な問題であり、良問であった。 |
| (4) 問題構成 | 4 | 試験問題の設問数、配点ともに適切であった。選択肢から選ぶ形式は、工夫されていた。 |
| (5) 表現・用語 | 4 | 問題の文章表現、用語に関しては、適切であった。特に、先の解答の見通しがたつような問題文の表現が工夫されていた。 |
| (6) 難易度 | 4 | 難易度は適正であり、学習の達成度を正しく評価できる出題であった。基本から発展的な問題までバランス良く出題されていて、計算量も適正であった。 |
| (7) 得点のちらばり | 4 | 適正であった。 |

2. 総合評価

| 項目 | 評価結果 | コメント |
|------|------|--|
| 総合評価 | 4 | 以上の観点を踏まえて、総合的に上記評価値で評価すると、大学入試センター試験の試験問題として適切であった。 |

1. 項目別評価

| 項目 | 評価結果 | コメント |
|-------------|------|---|
| (1) 出題範囲 | 4 | 高等学校学習指導要領の範囲内から適切に出題されていた。 |
| (2) 思考力 | 4 | 試験時間の配分などを踏まえ思考力や応用力などを問う問題が含まれていた。 |
| (3) 出題内容 | 4 | 特定の分野・領域や特定の教科書に偏りがなかった。 |
| (4) 問題構成 | 4 | 試験問題の構成は適切である。 |
| (5) 表現・用語 | 3 | 本試験の問題で第2問の問3で次の二つの起票方法が考えられるというところですが教科書には具体的な記述になっており、方法1と方法2という表現ではやや受験者は戸惑うかもしれません。 |
| (6) 難易度 | 4 | 問題の難易度は適切である。 |
| (7) 得点のちらばり | 4 | 得点のちらばりは適正である。 |

2. 総合評価

| 項目 | 評価結果 | コメント |
|------|------|--------------------------------------|
| 総合評価 | 4 | 高等学校段階における基礎的な学習の到達度を判定する試験として良問である。 |

1. 項目別評価

| 項目 | 評価結果 | コメント |
|-------------|------|--|
| (1) 出題範囲 | 4 | 高等学校学習指導要領の範囲内から適切に出題されている。 |
| (2) 思考力 | 4 | 科目特性や科目難易度、試験時間の配分等を踏まえ、知識のみでなく、思考力や応用力等を問う問題がバランス良く配置されている。 |
| (3) 出題内容 | 3 | 特定の分野・領域や特定の教科書におおむね偏っていない。 |
| (4) 問題構成 | 4 | 試験問題の構成は適切である。 |
| (5) 表現・用語 | 3 | 文章表現・用語は適切なものが大半であるが、より受験者が理解しやすい表現や用語を望む。 |
| (6) 難易度 | 3 | 問題の難易度はおおむね適正であるが、選択問題によって難易度に差異があるので、改善を望む。 |
| (7) 得点のちらばり | 4 | 得点のちらばりは適正である。 |

2. 総合評価

| 項目 | 評価結果 | コメント |
|------|------|---|
| 総合評価 | 4 | 以上の観点等を踏まえて、総合的に上記評価値で評価すると、大学入試センター試験の試験問題として適切であった。 |

1. 項目別評価

| 項目 | 評価結果 | コメント |
|-------------|------|---|
| (1) 出題範囲 | 3 | 高等学校学習指導要領の範囲内からおおむね出題されている。 |
| (2) 思考力 | 4 | 科目の特性や難易度、試験時間の配分等を踏まえ、思考力や応用力等を問う問題が適切に含まれている。 |
| (3) 出題内容 | 4 | 高等学校学習指導要領に示す範囲で各分野からバランス良く出題されている。特定の分野・領域や特定の教科書に偏っていない。 |
| (4) 問題構成 | 3 | 設問数・配点はおおむね適切であった。配点については部分点を与える問いが1問あり配慮されているが、組み合わせ問題ではできるだけ部分点を与えるほうがよい。 |
| (5) 表現・用語 | 4 | 簡潔で読み取りやすく、用語も適切である。 |
| (6) 難易度 | 3 | 基礎的な内容から標準的な問題が多くなったため平均点が下がった。複数の組み合わせの問題についてはできるかぎり部分点が必要ではないか。 |
| (7) 得点のちらばり | 4 | 得点の散らばりは適切なものとなっている。 |

2. 総合評価

| 項目 | 評価結果 | コメント |
|------|------|--|
| 総合評価 | 3 | 短い試験時間の中で、学習の達成の程度をみるために適切な題材が工夫して出題されている。バランスの取れた試験問題であったが、基礎的な問題をベースに部分点を取り入れるなどすれば平均点も上がり、より適切な問題となったと思われる。 |

1. 項目別評価

| 項目 | 評定結果 | コメント |
|-------------|------|--|
| (1) 出題範囲 | 4 | 高等学校学習指導要領の範囲内から出題されている。 |
| (2) 思考力 | 3 | 基本的な知識や理解について問う問題が中心であった。現象の変化を予測させるなどの思考力を問う問題がもう少し出題されても良かった。 |
| (3) 出題内容 | 3 | 高等学校学習指導要領に示す4分野から出題されていた。選択問題に波の分野を出題したので、第5問を選択した生徒にとっては、波の分野が多く少し偏っている。 |
| (4) 問題構成 | 3 | 文字計算の形式の問題に偏っているが、図やグラフを選択させる問題も出題され、全体的にはよくなった。 第5問に波の分野を出題したので、第5問を選択した生徒にとっては、波の分野の配点が大きすぎると思われる。 複数の問いを組み合わせる形式の問題は減少したが、昨年度あった部分点がなくなった。受験者の学習達成度をより詳しく見るために、部分点は必要ではないか。 |
| (5) 表現・用語 | 3 | 問題文は簡潔で読み取りやすく誘導が丁寧であり、受験者は解きやすかったと思われる。ただし、問題文の一部に誤解を招く可能性がある用語が見られた。 |
| (6) 難易度 | 4 | 全体的には、高等学校における学習の達成度をみるためにふさわしいものとなっていた。しかし、物理の受験者層（理系で理科を得意とする生徒が主）からすると平均点はもう少し高くても良い（65点程度）。 |
| (7) 得点のちらばり | 4 | 得点の散らばりは適切なものとなっている。 |

2. 総合評価

| 項目 | 評定結果 | コメント |
|------|------|---|
| 総合評価 | 4 | 全体を通して、難易度のバランスが取れた試験問題であった。 授業で扱えるような探求活動的な内容や身近な物理現象を題材とした出題があればなお良かった。 また、部分点があれば平均点も上がり、より適切な試験になったと思われる。 |

1. 項目別評価

| 項目 | 評価結果 | コメント |
|-------------|------|---|
| (1) 出題範囲 | 4 | 高等学校学習指導要領に準拠し、教科書に記載されている内容を素直に問う問題が多く学習内容の達成度を確認するための適切な問題となっている。 |
| (2) 思考力 | 4 | 思考力を問う問題は、解答数16のうち6題出題された。「化学基礎」という科目の性質と限られた解答時間を考慮すると、適切である。 |
| (3) 出題内容 | 4 | 化学と人間生活・物質の構成・物質の変化の各分野からバランス良く出題された。しかし、物質の変化の分野の中では、酸化還元反応の出題が少ないように感じる。思考力を問う良問の作成には困難を伴うことが予想されるが、努力いただきたい。身の回りの物質と化学を結びつける出題は、化学に対する興味・関心を高める上でも重要な意味を持つので、今後も続けていただきたい。ただし、化学と人間生活の分野では、教科書によって取り扱いが異なる場合も多く、出題内容に工夫をお願いしたい。「実験・観察」に関する問題は、4問であった。「実験・観察」に関する問題は、題材選びなど特に問題作成には困難を伴うことが予想されるが、実験の重要性を教育現場で意識させる観点からも引き続き積極的に出題していただきたい。 |
| (4) 問題構成 | 4 | 小問数14、平均選択肢数5.6であった。「複数組合せ問題」が3題出題されたが、関連性のあるものなので特に問題ないと判断する。今後も配慮をお願いしたい。 |
| (5) 表現・用語 | 4 | できるだけ問題文・条件を簡潔にし、平易な表現となるように工夫されており、作題者の配慮が見られる。教科書によって表現が異なる場合も多く、受験者に分かりやすい表現や用語の使用を引き続きお願いしたい。 |
| (6) 難易度 | 4 | 基本的問題が8問、標準的問題が6問、発展的問題が2問出題された。計算問題は数値が工夫されていた。文字を用いる点については慎重をお願いしたい。来年度以降は平均正答率が6割程度の難易度となるようお願いしたい。センター試験の平均点や難易度は受験者の科目選択に大きな影響を及ぼすため、今後もバランスのとれた難易度の問題を工夫していただきたい。 |
| (7) 得点のちらばり | 4 | 得点の散らばりは適切なものとなっていた。 |

2. 総合評価

| 項目 | 評価結果 | コメント |
|------|------|--|
| 総合評価 | 4 | 出題範囲や内容は学習指導要領の範囲内で、「化学基礎」の本質に対してできるだけ純粋な問いかけをしようとしている作題者の出題の意図・狙いは十分に感じとることができた。高等学校における「化学基礎」の基礎的な学習の達成度を見るにふさわしい、工夫された出題であった。 |

| | |
|-----|----|
| 科目名 | 化学 |
|-----|----|

1. 項目別評価

| 項目 | 評価結果 | コメント |
|-------------|------|---|
| (1) 出題範囲 | 3 | 高等学校学習指導要領に準拠し、教科書に記載されている内容を素直に問う問題が多く、学習内容の達成度を確認するための適切な問題となっている。ただし、一部に「化学基礎」のみからの出題があった。このような形での出題には十分配慮をお願いしたい。 |
| (2) 思考力 | 4 | 思考力を問う問題の出題が17又は18問（必答16、選択1または2）であった。これは昨年度の14又は15問より増加した。特に第2問の間3は、解答に必要なグラフを選択し、その値を読み取って計算する必要がある、また、溶液の体積も考えながら解答していく等、思考力を問う問題として良問であった。 |
| (3) 出題内容 | 4 | 大問6問（必答5、選択1）からの構成であり、「化学」の各分野からバランス良く出題されていた。「実験・観察」「図表・グラフ」に関する出題は10又は11問と、昨年度の4問より大幅に増加した。これらの問題は、実験・観察の重要性を教育現場で意識させる観点からも、今後とも積極的に出題をお願いしたい。なお、その際には、各教科書での扱い方等に十分配慮をお願いしたい。 |
| (4) 問題構成 | 4 | 小問数27（必答25、選択2）、解答数35（必答33、選択2）であり、小問数は昨年度と同数であるが、解答数が5増えた。解答時間などを考慮して、負担が増えすぎないように配慮をお願いしたい。 |
| (5) 表現・用語 | 3 | さまざまな知識や情報を与えようとする意図があるのか、問題文中に直接解答に影響を与えない内容が多く、それだけ問題文の文章量が増えたように見える。また、選択肢の文中にも多くの情報が入ったため、文章量が多いものが見られた。これは解答時間に影響し、平均点の低下につながったものと推察される。 |
| (6) 難易度 | 3 | 発展的内容の出題は2問であった。これは昨年度の4問より減少したが、平均点は下がった。これは、計算問題が昨年度より1問増えたことや、上記(5)の文章量が増えたことによる解答時間への影響が原因の1つであると考えられる。計算問題の出題や、問題文、選択文の内容については、慎重に判断をお願いしたい。 |
| (7) 得点のちらばり | 4 | 平均点は51.94点（昨年度54.48点）、標準偏差は20.86（昨年度20.94）であった。適度に広がりを持っており、受験者の力量に応じた分布となっている。 |

2. 総合評価

| 項目 | 評価結果 | コメント |
|------|------|---|
| 総合評価 | 3 | 新教育課程の高等学校学習指導要領による第3回の試験の作題にあたっては、高等学校教育現場の関係者の意見・要望に相当の配慮がされていた。作題者に深く敬意を表したい。全体的に見ると、出題範囲や内容は学習指導要領の範囲内で、化学の本質に対して純粋な問いかけをしており、受験者に対する作題者の出題の意図・狙いが十分感じられた。一方で、科目間の平均点の差が広がっており、この点についても配慮を強くお願いしたい。 |

1. 項目別評価

| 項目 | 評価結果 | コメント |
|-------------|------|--|
| (1) 出題範囲 | 4 | 昨年度に引き続き、おおむね高等学校学習指導要領に基づく出題であった。教科書の全分野から、バランス良く出題されていた。 |
| (2) 思考力 | 3 | 知識問題が多く、思考力や応用力等を問う設問は前年度と変わらない。 |
| (3) 出題内容 | 4 | 教科書に記載されている内容に準じた問題が多く、特定の教科書や特定の分野・領域に大きな偏りはみられなかった。 |
| (4) 問題構成 | 4 | 設問数並びに問題の内容に応じた配点はおおむね適切であった。設問形式並びに総選択肢数もおおむね適切であった。昨年度に比べて組合せ選択が減少しているため、選択肢を吟味する時間は十分にあり、受験者の負担が軽減されたと思われる。図選択が採用され、構成が多様になった点が評価できる。 |
| (5) 表現・用語 | 4 | 一部訂正があったが、文章表現・用語については、適切であった。 |
| (6) 難易度 | 3 | 受験者の実態に合っており、学習の到達度をおおむね正しく評価できる出題であった。「生物基礎」の受験者のほとんどが文系であることと、理科の基礎科目は2科目を受験しなければならないことを鑑みて、難易度は適正である。 |
| (7) 得点のちらばり | 3 | 昨年度に比べて、高得点者がかなり増加したのではないかと。今年度の平均点が大きく上昇したのは、過去2年の難易を踏まえ、受験者の対策が万全であったためと考えられる。 |

2. 総合評価

| 項目 | 評価結果 | コメント |
|------|------|---|
| 総合評価 | 4 | 受験者の実態にあった難易度で、問題構成も多様であり、全体として、高等学校段階における基礎的な学習の達成の程度を判定する試験として適切であった。 |

| | |
|-----|----|
| 科目名 | 生物 |
|-----|----|

1. 項目別評価

| 項目 | 評価結果 | コメント |
|-------------|------|---|
| (1) 出題範囲 | 4 | 高等学校学習指導要領に基づく内容から全体にわたってバランス良く出題されていた。「生物」で扱う内容は、かなり広範囲で詳細なものになっており、選択問題も分野別ではないので、受験者の負担は大きいと思われる。 |
| (2) 思考力 | 3 | 思考力を要する実験・考察問題は、今年度も多かった。より深い思考力を必要とする良問が追試験に多かったことで、そのような問題がもう1題程度、本試験にあっても良かったと思う。 |
| (3) 出題内容 | 3 | 教科書の内容に準じた標準的な設問が中心であり、特定の分野・領域に偏った出題は見られなかったが、教科書によって記載の詳細さが異なる内容からの出題があったのではないかと。 |
| (4) 問題構成 | 2 | 問題の内容に応じた配点はおおむね適切であった。選択問題の出題形式については、検討の余地があると思われる。分野横断的な問題は必答でよく、選択問題は、事前に予告した上で、分野別の選択にすることが望ましい。 |
| (5) 表現・用語 | 3 | 文章表現・用語については、適切であった。図表等には受験者の理解を助けるような工夫がもう少しあっても良かったのではないかと。 |
| (6) 難易度 | 4 | 問題全体の難易度はおおむね適切である。昨年と同様に標準的な問題が多く出題されたが、昨年に比べ平均点は少し上昇した。現行課程での出題が3年目で、高校教育現場及び受験者の対策がさらに進んだことも、その一因と思われる。選択問題で、難易度に差があるのは適切ではない。 |
| (7) 得点のちらばり | 4 | おおむね適正であり、高得点者が少し増加したと思われる点は評価できる。 |

2. 総合評価

| 項目 | 評価結果 | コメント |
|------|------|---|
| 総合評価 | 3 | 全範囲から詳細な知識を必要とする問題が出題されており、一つ一つの問題は熟考された良問であるが、設問数が増加した上にA B構成のため、思考の連続性が保たれず、受験者の思考に要する時間が十分に確保できていないと思われる。難易度に関しては適当であったが、3年目で対策が進み、平均点は上昇した。選択問題については、様々な面で再検討をお願いしたい。 |

| | |
|-----|------|
| 科目名 | 地学基礎 |
|-----|------|

1. 項目別評価

| 項目 | 評価結果 | コメント |
|-------------|------|---|
| (1) 出題範囲 | 4 | 高等学校学習指導要領に基づく「地学基礎」の範囲から適切に出題されていた。 |
| (2) 思考力 | 4 | 教科書に基づく基礎的な知識を重視しつつ、学習内容の義務教育との系統性も踏まえて、科学的な思考力、応用力等を問う問題が、適切に含まれている。 |
| (3) 出題内容 | 4 | 6分野からバランス良く出題され、特定の教科書に偏っていない。特に「環境・災害」分野、及び分野横断的な設問の出題数増加は、望ましい出題傾向であった。 |
| (4) 問題構成 | 4 | 試験問題の構成は適切である。 設問数・配点、選択肢、文章表現はともに適切であった。選択肢の数は、検討を要する設問もある。 解答における設問間の連動を避ける配慮はなされていた。 設問形式は、図・表・グラフなどが効果的に用いられた設問があり、分野横断型の設問は、分野を超えた理解力を判定するためによく考えられた出題であった。 |
| (5) 表現・用語 | 4 | 教科書の違いに配慮してあり、文章表現・用語は適切である。 用語統一のための牽引役もお願いしたい。 |
| (6) 難易度 | 4 | 問題の難易度は適正な範囲内である。 地学基礎受験者は、他の基礎科目の受験者より、高い学力層であることを考慮すると難易度は少し高めである。 |
| (7) 得点のちらばり | 4 | ほぼ正規分布に近く、バランスが取れている。得点のちらばりは適正である。出題内容や問題構成など適切であったことと、受験者が適切な「地学基礎」受験に必要な学習を行った成果であると考えられる。 |

2. 総合評価

| 項目 | 評価結果 | コメント |
|------|------|---|
| 総合評価 | 4 | 全体として適切な試験である。 「地学基礎」の学習達成度を測るため、基礎知識・科学的な思考力・判断力・応用力を総合的に問う問題で構成されており、大学入試センター試験の試験問題として適切であった。 |

1. 項目別評価

| 項目 | 評定結果 | コメント |
|-------------|------|---|
| (1) 出題範囲 | 4 | 高等学校学習指導要領の範囲内から適切に出題されている。 |
| (2) 思考力 | 3 | 過去の結果を踏まえ、難易度、試験時間を考慮した内容になっている。教科書に基づく基礎的事項の理解の程度を問う問題が中心で、科学的な思考力・応用力を問う問題はやや少ないものの、おおむね適切である。 |
| (3) 出題内容 | 3 | 「地学」5分野からおおむねバランス良く出題されていたが、「地学基礎」の内容で解答できる設問が多かった。教科書によって取り扱いが異なる内容に関する出題は、選択問題にすることが望ましい。 |
| (4) 問題構成 | 4 | 試験問題の構成は適切であった。昨年度同様、部分点を設定せず、選択肢の数も多くなく適正であった。例年どおりの設問数も妥当であったと考えられる。設問形式は、図・表・グラフなどが効果的に用いられ、組合せの設問も効果的であった。 |
| (5) 表現・用語 | 4 | グラフや図も分かりやすく、文章表現・用語も素直で紛らわしいものはない。適切である。 |
| (6) 難易度 | 3 | 教科書に基づく、基本的・基礎的な知識問題が昨年度より増加し、正答率が高い設問が増えたため、平均点は上昇した。その一方で、思考力や応用力を問う問題が減少し、全体としてバランスに欠けた印象がある。問題の難易度はおおむね適正である。 |
| (7) 得点のちらばり | 3 | 40～50点の比率が大きく、主な受験者層を表していると思われる。80～90点でも小さなピークが確認でき、優秀な受験者の存在を示している。昨年と比較して改善されており、得点のちらばりはおおむね適正である。 |

2. 総合評価

| 項目 | 評定結果 | コメント |
|------|------|---|
| 総合評価 | 3 | 以上の項目別評価を踏まえて総合的に判断すると、志願者の高等学校段階における基礎的な学習の達成度を判定することを主たる目的とする大学入試センター試験の試験としては、おおむね適切である。科学的な思考力・応用力を問う問題は少ない印象もあるが、「地学」受験者の特性を考慮した結果であると考えられる。 |

1. 項目別評価

| 項目 | 評価結果 | コメント |
|-------------|------|---|
| (1) 出題範囲 | 4 | 高等学校学習指導要領の範囲内であり、使用している語と文法事項等についても基本的なものが多く、文章も無理なく読めるものであった。 |
| (2) 思考力 | 4 | 発音・文法・慣用表現等の知識を確認する問題だけではなく、読解力や作文力、情報処理能力等、幅広い思考力・判断力・表現力が問われた。 |
| (3) 出題内容 | 4 | 使用されている題材は、様々な分野からのものであり、普段から多様な内容の英文に触れておくことの大切さを示唆する出題内容であった。また、男女間、居住地域間、背景知識の有無等に関して公平さを欠く問題もなく、受験者にとって、無理なく取り組めたと思われる。 |
| (4) 問題構成 | 3 | 問題形式について、受験者に必要以上に負担となっていると考えられる箇所も一部あったものの、大問ごとに問いたい内容は明確で、設問数・配点も偏りがなかった。選択肢もアルファベット順で統一されており適切であった。 |
| (5) 表現・用語 | 4 | 難解な語や不自然な表現もなく、表現・用語は英語、日本語とも適切であった。 |
| (6) 難易度 | 4 | 問題は、易しいものから、やや難しいものまで含まれており、弁別性が認められる。語数は昨年と同様で、平均点も昨年より目標点に近づいており、難易度は適正なものであった。 |
| (7) 得点のちらばり | 4 | 得点のちらばりは適正であったと思われる。 |

2. 総合評価

| 項目 | 評価結果 | コメント |
|------|------|--|
| 総合評価 | 4 | 高等学校学習指導要領、教科書の内容を踏まえ、無理なく取り組める問題であった。マークシート方式という制約がある中で、コミュニケーション能力を多方面から測ろうとしている。今後もコミュニケーション能力の育成を目指した学習の成果を問う問題を、継続して出題していただきたい。 |

1. 項目別評価

| 項目 | 評定結果 | コメント |
|-------------|------|--|
| (1) 出題範囲 | 4 | いずれの設問も、高等学校学習指導要領の「外国語」の範囲内での出題であり、学習の成果を問うものとして、おおむね適切な出題であった。 |
| (2) 思考力 | 4 | 聞き取った複数の情報を、総合的に勘案して正答を導くよう工夫されていた。会話の次に続く一言を思考させたり、音声として聞こえてくる内容を言い換えた選択肢を選ばせるなどの工夫も見られた。 |
| (3) 出題内容 | 4 | 日常生活に関する様々な話題や場面を扱っており、学習指導要領に示された「言語の使用場面」、「言語の働き」の観点によく配慮した、適切な出題内容であった。 |
| (4) 問題構成 | 4 | 高等学校段階の学習到達度を測る適切な問題構成であり、設問数、配点、設問形式ともに適切であった。 |
| (5) 表現・用語 | 3 | 第4問Aでは、リスニングテストとしては正しく聞き取り正しく理解することが難しい表現や語句の使用があり、難易度がやや高くなったが、全体的に日常使われる表現が多く用いられており、おおむね適切であった。 |
| (6) 難易度 | 4 | 第3問Bでは、視覚情報に含まれる文字の語数が増えたことにより、情報処理の負担が大幅に増えたが、全体的な難易度は標準であった。 |
| (7) 得点のちらばり | 4 | バランスの良い分布となっていた。 |

2. 総合評価

| 項目 | 評定結果 | コメント |
|------|------|---|
| 総合評価 | 4 | 全体として、受験者の高等学校段階における基礎的な学習の達成度を判定するための試験として適切であった。日常使われる自然な表現や、身近な場面設定が多く、学校現場への波及効果が期待できる試験問題であった。 |

1. 項目別評価

| 項目 | 評価結果 | コメント |
|-------------|------|---|
| (1) 出題範囲 | 3 | 例年と同様、基準を持たないため判断は難しいが、「高校で3年間ドイツ語を学んだ受験者」を対象とする試験として不適切な出題はなかったと考える。 |
| (2) 思考力 | 2 | 複数の情報をもとに、論理的に組み立てて1つの答えに至るような出題があまり見られなかった。 |
| (3) 出題内容 | 4 | 日常生活の場面から、社会的に関心の高い話題に至るまで、万遍なく取り上げられていた。 |
| (4) 問題構成 | 4 | 昨年同様の構成で、特に問題は感じられなかった。 |
| (5) 表現・用語 | 2 | イラストを用いたために、問題文理解の際に混乱を生じてしまうような出題があり、使い方に改善の余地があるように感じられた。 |
| (6) 難易度 | 3 | 入学試験としての適切さを損なうほどではなかったが、昨年度の難易度が上限と考えていたので、それよりもやや難しくなり、平均点がさらに低下したことは残念である。 |
| (7) 得点のちらばり | 3 | 例年同様、母集団が少ないため、統計的に意味のある分布とは思われないが、特に問題はないと思われる。 |

2. 総合評価

| 項目 | 評価結果 | コメント |
|------|------|--|
| 総合評価 | 3 | 新教育課程2年目ではあるが、今年から新しい試みを加えるなど、昨年度とはやや異なる印象を受けた。その中にはまだ改善の余地が感じられるものもあり、これまで同様、高等学校側の意見が顧慮されることを期待する。 |

1. 項目別評価

| 項目 | 評価結果 | コメント |
|-------------|------|---|
| (1) 出題範囲 | 4 | 文法、発音、用いられている単語など学習者であれば既習の範囲であった。 |
| (2) 思考力 | 4 | 海外生活経験ではなく、読み解く力を必要とする問題であった。 |
| (3) 出題内容 | 4 | 過去問、問題集などでは見られない、しかも基本的な知識がないと解答できない内容（問題）であった。 |
| (4) 問題構成 | 4 | バランス良く、発音、文法、多義語、長文読解と出されていた。 |
| (5) 表現・用語 | 3 | 読解問題で出題された絵（追試験）などにもう少し工夫がほしかったが、簡略化されているので仕方のないことかもしれない。 |
| (6) 難易度 | 4 | それほど易しくなく、難しすぎず、受験者の実力を適確に判断できた。 |
| (7) 得点のちらばり | 4 | 得点のちらばりが見られ、受験者の実力が適正に測られていた。 |

2. 総合評価

| 項目 | 評価結果 | コメント |
|------|------|---|
| 総合評価 | 4 | フランス語学習者の中級から上級まで、受験者全体が自分の実力（欠点も含め）を納得した形で確かめられた良問であったと思う。 |

| | |
|-----|-----|
| 科目名 | 中国語 |
|-----|-----|

1. 項目別評価

| 項目 | 評価結果 | コメント |
|-------------|------|---|
| (1) 出題範囲 | 3 | 学習指導要領第2章第8節では、「その他の外国語」は「英語の関する科目」に「準じて行うものとする。」とあり、明確な範囲が考えにくいですが、主要辞書の重要語等に配慮されている。 |
| (2) 思考力 | 3 | 中国語特有の言い回しや日常的によく使われる反語表現などを使った設問を取り入れている。また会話や文章題の空欄補充等も文法や単語にこだわらず、会話や文の流れを考える問題となっている。 |
| (3) 出題内容 | 3 | 日本人学習者が理解すべきピンインや基本的な発音の分野を出題しており評価できる。物語的な長文は説話的なもので流れが予想しやすく題材の吟味が必要かと思われる。 |
| (4) 問題構成 | 4 | 表現・語彙・長文問題も特定の分野・内容に偏っておらず適切である。 |
| (5) 表現・用語 | 3 | 文章表現・用語は適正であるものが大半であるが、選択肢等では日本語の表現と中国語表現に吟味する必要がある。 |
| (6) 難易度 | 4 | ここ数年、問題の難易度はおおむね適切であるが、高校の学習状況や受験者の特性を踏まえ、平均点にこだわらず難易度を維持することを望む。 |
| (7) 得点のちらばり | 4 | 適正な散らばりに近づいているが、受験者の構成や科目の特性上偏りが見られるのはいたしかたない。 |

2. 総合評価

| 項目 | 評価結果 | コメント |
|------|------|--|
| 総合評価 | 3 | 全体としておおむね適切な試験である。高校の学習状況・科目の特性・受験者の特性など考慮しながら工夫して作問されている。 |

| | |
|-----|-----|
| 科目名 | 韓国語 |
|-----|-----|

1. 項目別評価

| 項目 | 評価結果 | コメント |
|-------------|------|--|
| (1) 出題範囲 | 2 | 第1問、第2問には、「学習者」にとって、学習範囲外から出題されているため。 |
| (2) 思考力 | 3 | |
| (3) 出題内容 | 2 | 第1問、第2問に特定分野や領域が含まれているため。 |
| (4) 問題構成 | 3 | 後半の第4問、第5問の配点を高めるべきである。 |
| (5) 表現・用語 | 3 | |
| (6) 難易度 | 3 | |
| (7) 得点のちらばり | 2 | 韓国語母語話者や民族学校経験者の受験者が依然として一定程度いるので、適正とは言いがたい。 |

2. 総合評価

| 項目 | 評価結果 | コメント |
|------|------|------|
| 総合評価 | 3 | |